



F

文化庁海外メディア芸術祭等参加事業

韓国「Total Museum of Contemporary Art」にて 日韓のメディア芸術作品を紹介する「Daily Reflections」を実施

「文化庁海外メディア芸術祭等参加事業」（主催：文化庁／企画・運営：一般財団法人NHKインターナショナル）では、メディアアート、映像、ウェブ、ゲーム、アニメーション、マンガ等の優れたメディア芸術作品を紹介するため、海外のフェスティバルや施設において、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心に展示・上映・プレゼンテーション等を実施しています。

2月20日から3月9日まで、韓国の首都ソウル市の「Total Museum of Contemporary Art」で「Daily Reflections」（デイリー・リフレクションズ＝「日常の反射」）と題した企画展を開催し、日韓の作家による作品を通じて、メディア芸術にある現代性と普遍性を紹介します。本展は、企画ディレクターとして、国内の学芸員と韓国 Total Museum of Contemporary Art の主任学芸員との共同企画で実施されます。

¹*文化庁メディア芸術祭に関しては次頁を参照

■ 開催概要

文化庁海外メディア芸術祭参加事業企画展

「Daily Reflections」（展示、上映、関連イベント）

会 場： Total Museum of Contemporary Art
465-16 ソウル市鍾路区平倉洞 110-848

開催地： 韓国・ソウル市

会 期： 2014年2月20日（木）～3月9日（日）
11：00～18：00

入場料： 無料

主 催： 文化庁

共 催： Total Museum of Contemporary Art

企画ディレクター： 植田 憲司（高知県立美術館）

Nathalie Boseul Shin（Total Museum of Contemporary Art）

企画・運営：一般財団法人NHKインターナショナル

公式ウェブサイト：<http://jmaf-promote.jp/global/index.html>

【お問い合わせ】

文化庁海外メディア芸術祭等参加事業事務局（一般財団法人NHKインターナショナル内）

TEL: 03-6415-8500 FAX: 03-6415-8502 E-mail: jmaf-info@nhkint.or.jp



1. 文化庁メディア芸術祭とは

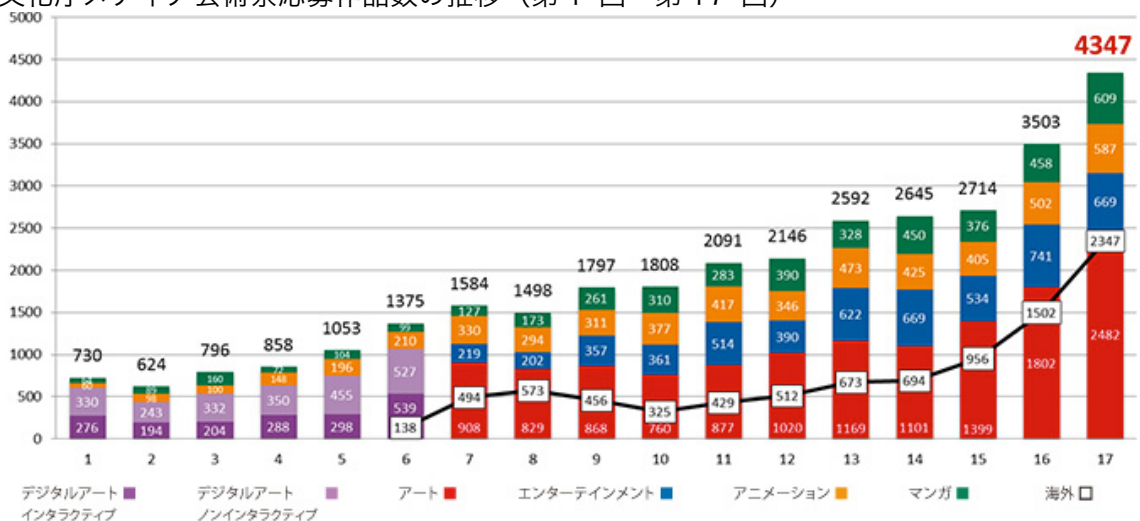
文化庁メディア芸術祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を表彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成9年度（1997年）の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。今年度〔第17回〕は、過去最多となる世界84の国と地域から4,347点に及ぶ作品の応募があり、文化庁メディア芸術祭は国際的なフェスティバルへと成長を続けています。

また、文化庁では、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を国内外で広く紹介する多彩な事業を実施しています。海外・国内展開をはじめ、創作活動支援や連携推進までを含む関連事業を通し、次代を見据えたフェスティバルを目指しています。



平成24年度〔第16回〕文化庁メディア芸術祭受賞作品展

文化庁メディア芸術祭応募作品数の推移（第1回～第17回）



【NHKインターナショナル】

NHKインターナショナルは、文化庁が主催する文化庁メディア芸術祭の関連事業である「海外メディア芸術祭等参加事業」の企画運営を受託し、日本のメディア芸術の発展に努めています。



2. 文化庁海外メディア芸術祭等参加事業企画展「Daily Reflections」について

本企画では、高知県立美術館学芸員・植田憲司氏とトータルミュージアムのチーフ学芸員 Nathalie Boseul Shin 氏との共同企画により、日韓のメディア芸術作品を広く紹介します。

Total Museum of Contemporary Art について

Total Museum of Contemporary Art は、1976年にオープンスペース「Total Sculpture Park」としてオープンし、1988年には韓国初の私立美術館として政府に認証されました。現代アートの企画展示を基盤としながら「地域の文化意識の向上」を目的に、多彩なジャンルの芸術文化を受け入れる総合文化空間として、音楽会やパフォーマンス、講演会など、質の高い芸術文化に触れる機会を提供しています。芸術分野の研究活動に加え、地域と芸術家を結ぶ架け橋としての役割も担っています。

Total Museum of Contemporary Art: 465-16 ソウル市鍾路区平倉洞 110-848

<http://www.totalmuseum.org>



■企画テーマ：「Daily Reflections」（日常の反射）について

企画ディレクター 植田 憲司

「鏡」は模倣や反復といった概念にもつながる言葉である。美術史上だけでなく文化史上、たびたび出現する普遍的な概念である。水無瀬翔の『I/F』、ウォンピンの『speceies series』はまさに模倣をキーワードにしているし、松島俊介の『Voice Portrait』は模倣でもあり、鏡と結びつけられるセルフポートレートとも言える。もうひとつのキーワードは、「運動あるいは静止」である。平川祐樹の『Frozen Leaf』は静止の中にある運動と言えるのではないだろうか。これもまた、普遍的かつ哲学的な問題である。

一方、ナタリーは『ソーシャルヒッチハイク』や『Google Maps 8-bit』などソーシャル・メディアの台頭とそれらを利用した作品を多く提案していた。彼女はキーワードとして「社会の鏡」（Reflection of Society）という言葉が続けてくれた。私の提案の「鏡」（Mirror）に対して反射や反省を意味する Reflection という言葉を選んだのだ。それに応えて私は Google Street View を使った田村友一郎の『NIGHTLESS』を提案することにした。

この展覧会では、現代の社会を象徴するテーマ（ソーシャル・メディア）と、昔からかわらず続く普遍的なテーマ（鏡や時間）が交錯することを期待したい。そして、最後まで決まらなかった展覧会のタイトルは、紆余曲折があったが、「日常の反射」（Daily Reflections）とすることにした。日常の中に潜む「反射」や「内省」といったものをテーマに据えた私の提案と、私たちが生きる現代社会の「反射体=鏡」といったテーマを据えたナタリーの提案、その両方を同時に指し示す言葉、「日常の反射」をタイトルとして選んだ。



■ 展示作品一覧 (予定)

作品名	作家名	作品形態	国・地域
A: Mirror and Repetio / 鏡と反復			
VOICE PORTRAIT self-introduction	松島 俊介	ビデオ・インスタレーション	日本
Species series (第16回アート部門新人賞)	Yang Wonbin	メディア・インスタレーション	韓国
I/F	水無瀬 翔	ビデオ・インスタレーション	日本
Sight Seeing spot (第11回アート部門審査委員会推薦作品)	萩原 健一	ビデオ・インスタレーション	日本
Paramodelic-graffiti	PARAMODEL	インスタレーション	日本
B: Reflection of Society / 社会の鏡			
nubot (第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品)	nuuo (千房 けん輔 / 林 智彦) / 堀尾 寛太 / anno lab / 徳井 綾	電子工作ロボット	日本
Google Maps 8-bit (第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品)	Google Maps 8-bit 制作チーム	ウェブ、ウェブムービー	日本
NIGHT LESS (第14回アート部門優秀賞)	田村 友一郎	映像	日本
Bottlelogics	LEE Zune	メディア・インスタレーション	韓国
Voice Fishing	LEE Zune	メディア・インスタレーション	韓国
Friendship is Universal	Bang & Lee	インタラクティブ・インスタレーション	韓国
Virgin Candy Project	KIM Ga Ram	インタラクティブ・インスタレーション	韓国
C: Movement, or Stillness / 運動あるいは静止			
Frozen Leaf (第16回アート部門審査委員会推薦作品)	平川 祐樹	ビデオ・インスタレーション	日本
IRIS	HYBE	インタラクティブ・メディア・キャンパス	韓国
D: Sound / サウンド			
Digiti Sonus	HAN Youu Chung & HAN Byeong-jun	サウンド・インスタレーション	韓国
th*****_some of sound equipment 2011	MAENO Andre	サウンド・インスタレーション	韓国
irresisterble perception #6	JUN Hyoungsan	サウンド・インスタレーション	韓国
Looks Like Music	スズキ ユウリ	サウンド・インスタレーション	日本
E: Video Works / 映像作品			
BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW (第16回アート部門優秀賞)	SOL CHORD (前田 真二郎 / 岡澤 理奈)	ウェブ	日本
Sing Under	SEO Jung Hee	映像	韓国

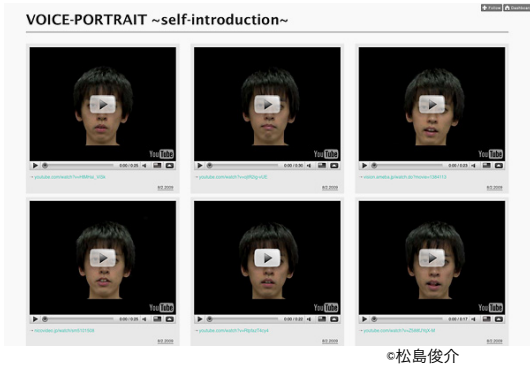


■展示作品（抜粋）

A : Mirror and Repetition / 鏡と反復

『VOICE-PORTRAIT self-introduction』 松島 俊介

ビデオ・インスタレーション



この作品は、インターネットの動画投稿サイトにあげられている大量の自己紹介の動画で流用して作られている。他人が自己紹介をする動画から声だけ取り出し、あたかも作家である松島自身が話しているかのように演じるポートレート動画である。すべての映像は松島自身が真正面から撮影された映像であるが、音声だけが他者からの借り物である。自己と他者の不思議な一体化がウェブ上で増殖していくさまは、不思議な魅力がある。

<http://www.shunsukem.jp/>
<http://voice-portrait.tumblr.com/>

©松島俊介

『Species series』 YANG Wonbin

メディア・インスタレーション (第16回アート部門新人賞)



©Wonbin Yang

人間の姿や機能を模倣するロボット概念を覆し、ゴミや昆虫に似た都市の中でたくましくいきる生命を模倣するロボット。都市をサバイブするこの生命体をよく観察すると、私たちは死をも見つめることになる。それは、個体の淘汰、適応、種の進化といった歴史のプロセスさえ模倣しようとしている。あるいは、作者であるウォンビンが、この模倣は必然であるとのめかしているのかもしれない。

<http://wbyang.com/artworks.html>

『I/F』 水無瀬 翔

ビデオ・インスタレーション



©水無瀬翔

顔面を白塗りした男がこちらを見ているが、不意に首を回して背を向ける映像。しばらくするとまたこちらに顔を向けたかと思うと、わずかに顔を上にあげたり、下げたりして、意味深なしぐさを繰り返す。実は、この動作は白フクロウの他愛もない「しぐさ」を真似たものである。作者である水無瀬は、この作品で白フクロウやヤギなどの「しぐさ」を写した映像と、そのしぐさを真似た人間の映像を空間の中に対置させることで、人間の個性と思われたしぐさが実はまったく個性的なものではなく、逆に、しぐさのほうが個人よりも個性的であるということをはのめかしている。



B : Reflection of Society / 社会の鏡

『Google Maps 8-bit』 Google Maps 8-bit 制作チーム

ウェブ、ウェブムービー (第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品)



©Google

「ぼうけん」をテーマに、いつもの Google マップを、子どもの頃旅したドラゴンクエストの世界につくりかえたエンターテインメント・プロダクト。2012年のエイプリル・フールに公開され、世界中のユーザーが Google マップ上のメニューから利用でき、ソーシャルメディアでマップの座標やプロモーション動画をシェアした。

『NIGHT LESS』 田村 友一郎

映像 (第14回アート部門優秀賞)



©田村友一郎

全編が Google ストリートビューのイメージだけで構成されたロードムービー。ネブラスカ、千葉、アラスカ、ポルトガル、マルセイユを舞台に国を越えて物語は繰り広げられていく。そこには決して夜は訪れない。前半は作家本人のアフレコ、後半は YouTube の音声などを使用して構成。撮影せずにつくられた映画は、果たして「映画」といえるのだろうか。

『Friendship is Universal』 Bang & Lee

インタラクティブ・インスタレーション



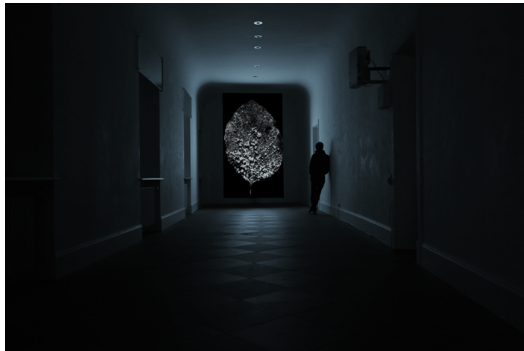
二人組のアーティストユニット Bang & Lee によるインスタレーション作品。『Friend is Universal』は、Twitter から集められたデータが反映するインタラクティブなライト・アートである。ソーシャルメディアの台頭する現代、ネット上でしか知らない友人など今までになかった多様な友人関係が存在するなか、この作品は私たちすべてにとって共通する感情である「友情」について問いかけている。



C : Movement, or Stillness / 運動あるいは静止

『Frozen Leaf』 平川 祐樹

ビデオ・インスタレーション



©Youki Hirakawa

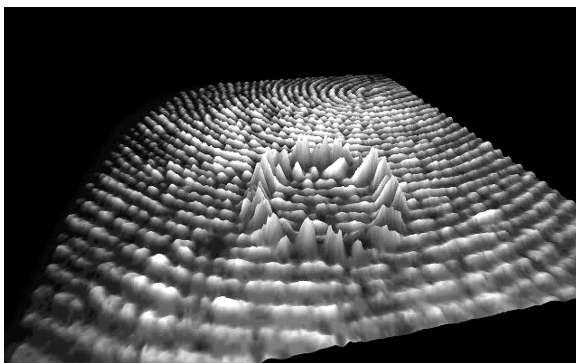
葉の表面の氷がとけていく様子が大きなスクリーンに投影されている。氷はゆっくりと解けていくが、同時に葉は水分を吸収して徐々に黒ずみ画面の闇の中に消えていく。平川は、はかないものに眼差しを向け、静止の中の運動を切り出すことで、私たちを包み込んでいる時間というものを直感させている。

<http://www.youkihirakawa.jp/FrozenLeaf.html>

D : Sound / サウンド

『Digiti Sonus』 HAN Yoou Chung & HAN Byeong-jun

サウンド・インスタレーション



本作は、人間の指紋を波形化し、音に変換するサウンド・インスタレーションである。鑑賞者はまさに彼/彼女自身だけが持つ独自の音を指紋を通じて体験することになる。指紋は、現代社会において生体個人認証という社会的に重要な役割を持っているが、作家はそのような役割ではなく、指紋から私たちの体に潜んでいる純粋な声を探ろうとしている。

<http://yoonchunghan.com/portfolio/DigitiSonus.html>



F : Video Works / 映像作品

『BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW』

SOL CHORD (前田 真二郎 / 岡澤 理奈)

ウェブ (第16回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞)



©SOL CHORD

東日本大震災が発生した2週間後にスタートした『BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW』は、前田真二郎が作成した「指示書」をもとに映像作家が5分の映画を制作し、ネットで公開するプロジェクト。ウェブサイトでは、各作家が撮影した場所や月日がアーカイブされ、その日に起こったニュースも閲覧できる。

『Sing Under』 SEO Jung Hee

映像作品



黒い液体は女性の体から流れ出す得体の知れない汚染物を象徴し、ゆがんだ嫌悪感が詩的な幻想をいだかせる。非人間的な不可解な女性の身体と、避けることの出来ない死から生じる現代社会の恐怖を融合させた、天地創造の謎を思わせる実験映像である。

作者は頻発する災害のイメージから本プロジェクトを着想。圧倒的な数の映像は悲劇の本質を平凡化させると同時にこれから起こり得る災害への不安を増幅させている。人間の身体の残酷な存在に焦点をあてる手法を取ることで、本プロジェクトは独自の知覚と概念の創造を探求する。

<http://www.jungheeseo.tumblr.com/>



■プログラム上映

「第16回文化庁メディア芸術祭受賞作品～映像プログラム～（120分）」

平成24年度〔第16回〕アート、エンターテインメント、アニメーション各部門の受賞作品と審査委員会推薦作品の中から、短編アニメーションやビデオアート、ミュージックビデオなど、多様な短編映像作品により編成した18作品、120分のプログラムです。プログラム監修：村上 寛光（東京藝術大学大学院映像研究科助教）

*レクチャールームにて会期中連日上映

作品名	作家名	上映時間
永野 亮「はじめよう」 (第16回エンターテインメント部門新人賞)	新井 風愉	6:43
石橋 英子「imitation of life」 (第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品)	TAKCOM	4:15
新しい生物 (第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品)	ユーフラテス	9:19
salyuxsalyu「話したいあなたと」 (第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品)	辻川 幸一郎	3:37
ハイスイノナサ「地下鉄の動態」 (第16回エンターテインメント部門新人賞)	大西 景太	4:22
水道橋重工「KURATAS」 (第16回エンターテインメント部門優秀賞)	倉田 光吾郎/吉崎 航	3:05
Bye Buy (第16回アート部門優秀賞)	Neil BRYANT	2:42
On Pause (第16回アート部門優秀賞)	Mikhail ZHELEZNIKOV	5:43
開かれた遊び、忘れる眼 (第16回アート部門審査委員会推薦作品)	ALIMO	8:39
Strata #4 (第16回アート部門審査委員会推薦作品)	Quayola	1:54
BETWEEN YESTERDAY AND TOMORROW (第16回アート部門優秀賞)	SOL CHORD (前田真 二郎/岡澤 理奈)	5:00
ぼくもくま (第16回アニメーション部門審査委員会推薦作品)	合田 経郎	5:13
布団 (第16回アニメーション部門新人賞)	水尻 自子	6:02
就活狂想曲 (第16回アニメーション部門審査委員会推薦作品)	吉田 まほ	7:27
グレートラビット (第16回アニメーション部門優秀賞)	和田 淳	7:14
夕化粧 (第16回アニメーション部門審査委員会推薦作品)	胡 嫻嫻	10:22
oh Willy… (第16回アニメーション部門新人賞)	Emma De SWAEF/ Marc James Roels	16:35
火要鎮 (第16回アニメーション部門大賞)	大友 克洋	12:51



■関連イベント (予定)

プレゼンテーション「Media Arts in Japan」

本企画ディレクター、植田憲司が近年の日本のメディアアートシーンを紹介します。

出演：植田 憲司 (高知県立美術館学芸員)
会期：2月20日(木) 16:00~18:00
定員：20名

アーティストトーク「Brunch with Artists」

本企画展に参加している韓国人作家による、アーティストトーク。
展覧会期中の各土曜日に開催。

日時：2月22日(土) / 3月1日(土) / 3月8日(土) 12:00~14:00
出演：Bang & Lee (2月22日) / HYBE (3月1日) / LEE Zune (3月8日)
定員：20名

コラボレーションプロジェクト

「BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW 2014 in SEOUL」

韓国の映像作家が参加し、会期中に映像作品を制作。
完成した作品は、最終日に特別上映会を実施し、公式サイトにて公開予定。

講師：前田 真二郎 (SOL CHORD) + セオ・ヒョジョン
会期：2月27日(木) / 3月2日(日)
定員：10名

公開デモンストレーション「nubot 体験」

新しいコミュニケーションツール「nubot」を実際に使い、ソウルと東京を繋ぐビデオチャットを実施する。距離を感じない会話やアクションを実際に来場者が体験する。

出演：上妻 世海 (nuuo)

日時：2月20日(木) 18:30~19:00 随時デモンストレーションを実施



©nuuo.inc

『nubot』 nuuo (千房 けん輔 / 林 智彦) / 堀尾 寛太 / anno lab / 徳井 綾
電子工作ロボット (第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品)

東京と福岡に離れて活動する nuuo 社の会議用に開発されたロボット『nubot』。スマートフォンを人形にはめこむことで、コミュニケーション・サービス・ツール skype や Google+ でつないだ遠方にいる人が、まるでここにいるかのように会話やアクションを楽しむことができるアイテムを発明。新しいビデオチャット生活のあり方を提示した。